

日本天文学会 早川幸男基金による  
渡航報告書

『パリのこと』



招いてくれた Combes 氏と共に。彼女の研究室で。

パリで開かれた銀河動力学の国際研究会 (XVth IAP meeting) に参加した。その後の2週間 Françoise Combes 氏の下に滞在し、彼女を含むパリ天文台のスタッフ達と議論する機会を持つことが出来た。渡航の機会を与えてくれた、日本天文学会早川幸男基金に深く感謝する。

私の発表は渦巻銀河のスケーリング則の統一的解釈についてである。光度、半径、速度の張る3次元対数空間を考えると、円盤銀河は (a) 全て単一平面上に乗り、(b) しかもその平面上では長楕円形の領域だけに収まるという事実から出発している。Tully-Fisher 関係など既知のスケーリング則は分散まで含めて、全てこの長楕円形を斜めに射影したものとして理解される。この2性質 (a) (b) は銀河の質量と角運動量の違いによって作られるということシミュレーションにより確かめた。興味を持ってくれた人も多く、有意義な議論が出来たと思う。

研究会の後、Combes 氏は何度も私と話し合いをする機会を作ってくれた。彼女はぐんぐんと先に進んでいく自分の想像力を追いかけてながら、作業を進めているように見える。彼女の頭の中にはいつも明確な描像があって、驚かないわけにはいかないのだ。これは私の想像よ。と言いながらにこやかに質問に答えていく。

私は旅行に出るといつもささいな、取り留めない事柄に自分が動かされるのを知って驚くことになる。商店のウィンドウをのぞいてみたり、カフェのオムレツが恋しくなったりする。私の旅行はいつも散歩のようであり、そうしているうちに絡まった頭が少しずつ解きほぐされていくのだと思う。夕方天文台を出るとパリの街を歩き、その日の数々の出来事について考える。私は理解し、自分のものにするのに時間が掛かるから、こうした時間はとても貴重なものだった。

宿舎の窓をいつも向か

いの猫が覗いてい

た。私は思わず

パシャリと撮

った。七月の

パリの遅い

夕暮れを、

私はその猫

を眺めながら

過ごしていた。

私は自分の中に、

銀河が形成されていく

描像を作り上げたいと思ったのだった。



幸田 仁

(東京大学大学院

理学系研究科付属天文学教育研究センター)